

# SHARP

シャープ サステナビリティ レポート 2012  
〈ハイライト〉

100<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



2012  
INTERNATIONAL YEAR OF  
SUSTAINABLE  
ENERGY FOR ALL

## CONTENTS

01 経営理念・経営信条

## トップメッセージ

02 次の100年に向けて

04 創業者の精神

05 企業ビジョン

## 特集

06 持続可能な社会の実現をめざして

10 シャープグループの概要

## ■「シャープ サステナビリティ レポート2012」および情報開示体系について

持続可能な(サステナブル)社会の実現に貢献する、シャープの環境面・社会面をはじめとするCSR※(企業の社会的責任)の取り組みに関する情報を、さまざまなステークホルダーのニーズにお応えするため、以下3種類の媒体を用いて開示しています。

なお、本年より名称を「環境・社会報告書」から「サステナビリティ レポート」に改称しています。

<年次レポートハイライト版> **本レポート**

2011年度におけるCSRの特長な取り組みを、シンプルにまとめたレポートをPDFで作成してシャープホームページに掲載しています。

シャープホームページに掲載している関連情報については、をつけて記載しています。

## &lt;年次レポート&gt;

2011年度におけるCSRの取り組みについて、「特集」で特長な内容をご紹介するとともに、詳細な内容を「マネジメント」「環境とシャープ」「社会とシャープ」の3つのパートに分けて、関連データとともにPDFで作成してシャープホームページに掲載しています。

## &lt;Webサイト&gt;

上記年次レポートの内容に加え、補完データや最新情報などを掲載しています。

シャープホームページ「社会環境活動」ページ <http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/>

※ CSR: Corporate Social Responsibility

## 表紙について



私たちの原点は「かけがえない美しい地球」、シャープは「真のグローバル企業」をめざします。という思いを表現しました。



創業100周年ロゴ  
シャープの創業は1912年9月15日。おかげをもちまして、本年創業100周年を迎えます。



国連国際年ロゴ  
国連は2012年を国際年「Sustainable Energy for All」と定めています。シャープはこの趣旨に賛同し、次の100年に向けて、世界各地でソーラー発電の開発と普及を進めます。

## 経営理念

いたずらに規模のみを追わず、  
誠意と独自の技術をもって、  
広く世界の文化と福祉の向上に貢献する。  
会社に働く人々の能力開発と  
生活福祉の向上に努め、  
会社の発展と一人一人の  
幸せとの一致をはかる。  
株主、取引先をはじめ、  
全ての協力者との相互繁栄を期す。

## 経営信条

二意専心  
**誠意と創意**

この二意に溢れる仕事こそ、人々に心からの満足と喜びをもたらす真に社会への貢献となる。

誠意は人の道なり、すべての仕事にまごころを  
和は力なり、共に信じて結束を  
礼儀は美なり、互いに感謝と尊敬を  
創意は進歩なり、常に工夫と改善を  
勇気は生き甲斐の源なり、進んで取り組め困難に

## シャープは、「モノづくり」「価値づくり」を通じて社会に貢献します。

「他社がまねするような商品をつくれ」。シャープの創業者 早川徳次のメッセージには、メーカーとして、次の時代のニーズをいち早くかたちにすることで社会に貢献するという経営の考え方が凝縮されています。歴代の経営者は、それぞれ言葉の表現は違うものの、メーカーとして、モノづくりを通じて社会に貢献し、信頼される企業をめざす経営を実践してきました。

1973年、この創業以来不変の精神を、経営理念・経営信条として明文化しました。シャープがめざす姿である経営理念には、「世界の文化と福祉の向上に貢献する」などの言葉で、社会・ステークホルダーとの共存共栄をめざす、今日のCSRに通じる思想が明確に盛り込まれています。経営信条には「誠意と創意」を掲げ、経営理念を実現するために全社員が堅持すべき信念として徹底しています。

シャープがCSRへの取り組みを通じてめざすゴールは、事業活動を通じて、経営理念を実現し、持続可能な社会の構築に貢献することにほかなりません。創業100周年となる本年、シャープは改めてこの原点を確認し、これからも、誠意のある行動・活動の実践および、創業以来脈々と流れる創意の遺伝子とともに、オンリーワン商品や新しいライフスタイルの提案による新たな価値づくりに邁進し、皆さまから信頼され続ける企業となるために、取り組んでまいります。

当レポートへのご意見・ご感想を  
お寄せください。

**アンケートページ** [http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/inquiry/ssr\\_form.html](http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/inquiry/ssr_form.html)



## 次の100年に向けて、 世界中の人々から信頼と期待を得る 「真のグローバル企業」をめざします

シャープは、創業者 早川徳次が1912年9月15日に東京で、18歳の若さで創業して以来、本年で100周年を迎えます。

長年にわたり、社業の発展にお力添えをいただきましたお客さまをはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまに、心より感謝申し上げます。

### ■ 次の100年に向けて

さて、今日のシャープを取り巻く環境は極めて厳しいものがあります。激動と呼ぶにふさわしい時代の中で、2011年度の決算はかつてない厳しい内容となりました。欧州債務問題の域内外への波及、中国・新興国の成長鈍化、液晶テレビや太陽電池をはじめとする商品およびデバイスの大幅な価格下落、急激な円高、国内におけるアナログ停波後の液晶テレビの需要急減など、外的要因を挙げればきりがありません。しかしながら、根本的な課題は、自らを変革し、いかなる経営環境の変化にも対応し得る体制を一刻も早く構築することにあると認識しております。

ここ数年来、グローバル視点での経営を旗印に、伸長する新興国市場を主なターゲットとして地産地消のモノづくりを進めていますが、さらにスピードを上げる必要があります。また、コモディティ化したデジタル商品は、生産規模の拡大によるコストカとスピードが求められており、一社だけで研究開発から設計、生産、販売、アフターサービスに至るまで、すべてを手掛けていたのでは、グローバル市場におけるパワーゲームの中で優位に立つことは困難です。

次の100年に向けて、世界の地域ごとに基軸を構え、スピードを上げて自らの変革を進めます。そして、世界各地の多様な需要に的確にお応えする、オンリーワンの創エネ事業や省エネ商品を次々に創出し、世界の有力なパートナーとの協業により、グローバルに提供してまいります。



取締役社長  
奥田 隆司



シャープ製薄膜太陽電池を用いて2012年3月にタイ王国において完成した世界最大級73MWのメガソーラー発電所(同国の独立発電事業者NED社から、同国最大手の建設会社ITD社/ITE社と共同で建設を受注。シャープは保守・メンテナンス業務も受託)

## ■ 企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」をさらに極めます

地球環境問題の解決に向けて、世界全体が共通の認識のもとに動き始めるきっかけとなった国連環境開発会議(通称:地球サミット)が開催されてから、今年でちょうど20年になります。

シャープは逸早く環境保全に取り組み、「エコ・ポジティブ カンパニー」を企業ビジョンに掲げ、すべてのステークホルダーの皆さまとともに、事業活動による環境負荷(ネガティブ・インパクト)を大幅に上回る環境貢献(ポジティブ・インパクト)を果たす企業をめざしています。

中でも、温室効果ガスの削減を特に重要な課題と捉え、創エネの太陽電池と省エネ商品の開発・普及を進めるとともに、事業活動による排出量の抑制に取り組んでいます。

2011年度は、シャープの創エネ・省エネ商品をお客さまにお使いいただくことによる温室効果ガス削減貢献量が、シャープの事業活動による排出量の3倍以上に達しました。

2012年度からは指標を変えて、シャープの太陽光発電関連事業による削減量(さらに拡大)と、サプライチェーンを含めたシャープの事業活動およびシャープ商品の使用による排出量(可能な限り抑制)を2020年度までにバランスさせる取り組みを進めます。

## ■ 創エネ事業と省エネ商品をグローバルに展開します

タイ王国で建設を進めていた世界最大級73MWのメガソーラー発電所が今年3月に完成しました。イタリアではエネルギーグループとの協業により、これまでに計6ヶ所にメガソーラー発電所を建設し、発電を開始しています。また、北米ではシャープグループのリカレント社が、カリフォルニアやアリゾナでメガソーラー発電所を建設しており、カナダでも大規模なプロジェクトを進めています。さらに日本においては、今年7月の再生可能エネルギー買い取り制度の開始に向けて、各地でメガソーラー発電所の建設を計画しています。

再生可能エネルギーへの期待が高まる中、世界各地でメガソーラー発電所の建設が進められています。有限な化石資源に頼らず、地球温暖化を招くとされるCO<sub>2</sub>をはじめ、騒音や

汚染物質も排出せずに発電できる太陽光発電は、コストダウンを進めることで、飛躍的な普及が期待できます。

シャープは太陽光発電による創エネ技術と、液晶テレビやLED照明、冷蔵庫などの省エネ技術を長年にわたり蓄積してきました。これらの技術をもとに、前述のエネルギーグループや液晶パネルなどで協業を計画している鴻海グループなど、世界の有力なパートナーと協力して、世界中に創エネ事業と省エネ商品を提供することで、持続可能な(サステナブル)社会の実現に貢献いたします。

## ■ 「誠意と創意」で、広く世界に貢献する存在をめざします

創業100周年にあたり、経営理念および経営信条に立脚し、誠意と独自の技術をもって、グローバルな視点で社会的課題の解決に貢献してまいります。また、国連グローバル・コンパクトに定める「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」に関する10原則を今後も支持するとともに、このレポートに記載したマネジメント、環境、社会面の各分野の取り組みの実践、拡充を通じて、社会的責任を果たしてまいります。

シャープは、サステナブル社会の実現に貢献する事業活動を世界各地で展開し、世界中の人々から信頼され、期待される「真のグローバル企業」をめざします。

今後も企業活動に関する情報開示に努め、ステークホルダーの皆さまからの貴重なご意見を経営に反映してまいります。

2012年6月

取締役社長

興田隆司



# 創業者の「モノづくり」「報恩感謝」の精神を 次の100年へ

シャープの創業者 早川徳次は、1893年、東京に生まれました。1912年9月に金属加工業を独立開業。創意工夫の才を発揮し、シャープペンシルを考案、事業を拡大しました。

「常に他より一歩先に新境地を拓く」という先取性を発揮し、1925年には国産第1号鉱石ラジオの組み立てに成功。大手ラジオメーカーとなり、シャープの礎を築きました。

その後も国産第1号テレビなど、家電史に残る画期的な商品を数多く開発・指揮し、半世紀以上前に太陽光エネルギーに着目するなど、現代に通じる先見性を持っていました。

また、報恩の気持ちと感謝する心を忘れず、障がい者が自立的に働ける工場を設立、日本最初の特例子会社※とするなど社会福祉の分野でも貢献した、人間味あふれる人物でもありました。

「他社がまねするような商品をつくれ」そして「報恩感謝」。

この創業者の精神は、今なおシャープに受け継がれています。



2004  
ウォーターオープン  
「ヘルシオ」

2010  
LEDシーリングライト  
「ELM(エルム)」

2011  
タッチディスプレイ  
「BIG PAD」

2011  
住宅用高効率単結晶  
太陽電池モジュール  
「ブラックソーラー」



2000  
モバイル  
カメラ付き携帯電話

2000  
「プラズマクラスター」  
技術採用の空気清浄機

2001  
液晶カラーテレビ  
「AQUOS(アクオス)」



1964  
オールトランジスタ電卓  
「コンペット」

1989  
左右開き冷凍冷蔵庫

1992  
液晶ビデオカメラ  
「液晶ビューカム」



1953  
国産第1号テレビを量産

1962  
国内初の量産電子レンジ

1963  
太陽電池モジュール



1912  
早川徳次が「徳尾錠」を発明、  
独立開業へ

1915  
早川式繰出鉛筆

1925  
国産第1号鉱石ラジオ

100<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY

シャープは、創業以来受け継いできた“創意の遺伝子”をもとに、シャープならではの独自の技術を駆使して、世の中になかった“オンリーワン”の商品・デバイスを生み出すことで、お客さまに満足を提供することを、事業経営の基本としてきました。

これからも、シャープは、オンリーワンの革新的な提案により、新しい流れを創り、これを積み重ねることで、奔流に挑戦し、本流を創り上げていくことをめざします。

創業100周年を迎える本年、決意を新たにオールシャープの力を結集し、持続的な成長をめざします。

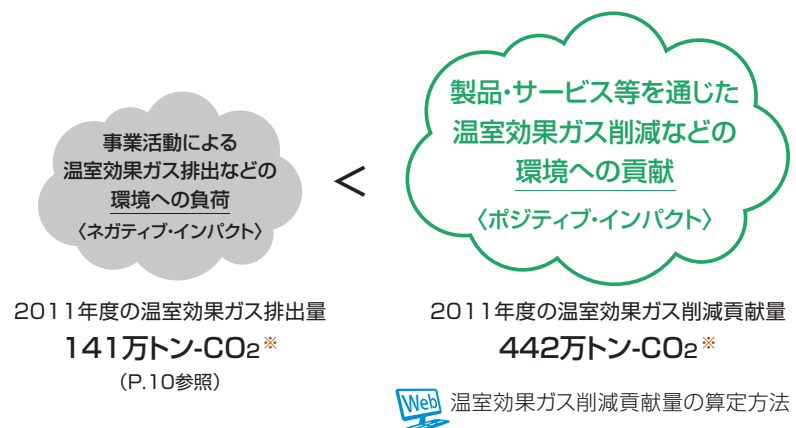
※ 特例子会社：企業が厚生労働大臣の許可を受けて、障がい者の雇用を促進する目的でつくる子会社。

Web 100周年記念サイト

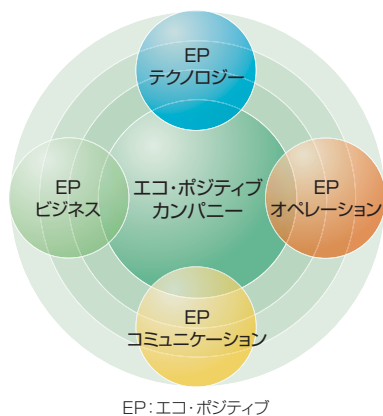
# 企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」

シャープの企業ビジョンは、「エコ・ポジティブ カンパニー」です。「エコ・ポジティブ カンパニー」とは、すべてのステークホルダーの皆さまとともに、事業活動による環境負荷(ネガティブ・インパクト)を大幅に上回る環境貢献(ポジティブ・インパクト)を果たす企業を意味しています。中でも、温室効果ガスの削減を特に重要な課題と捉え、創エネの太陽光発電と省エネ商品の開発・普及を進めるとともに、事業活動による排出量の抑制に取り組んでいます。

## ■ 企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」の概念図と 2011年度の温室効果ガス排出量および削減貢献量の実績



## ■ 「エコ・ポジティブ戦略」の4つの切り口



- **エコ・ポジティブ テクノロジー**  
オンリーワン環境技術を通じた新規事業の創出
- **エコ・ポジティブ ビジネス**  
製品・サービス・事業を通じた環境貢献の拡大
- **エコ・ポジティブ オペレーション**  
モノづくり・事業展開における環境負荷の低減
- **エコ・ポジティブ コミュニケーション**  
社会との交流を通じた環境マインドの強化

## 温室効果ガス削減の取り組み

シャープは企業ビジョン「エコ・ポジティブ カンパニー」のもと、創エネと省エネで温室効果ガスを削減する取り組みを進めています。

2004年度に「地球温暖化負荷ゼロ企業」を宣言し、「2010年度までに、シャープの創エネ・省エネ商品をお客さまにお使いいただくことによる温室効果ガス削減貢献量が、シャープの事業活動に伴う排出量を上回るようにする」という目標に取り組み、これを2008年度に達成しました。さらに「削減貢献量を排出量の2倍以上にする」という2012年度目標を2011年度に達成しました。2011年度の排出量141万トン-CO<sub>2</sub>に対し、削減貢献量は442万トン-CO<sub>2</sub>と2倍を大きく上回り、3.1倍に達しています。

2012年度からは指標を変えて、シャープの太陽光発電関連事業による削減量(さらに拡大)と、サプライチェーンを含めたシャープの事業活動およびシャープ商品の使用による排出量(可能な限り抑制)を2020年度までにバランスさせる取り組みを進めます。



副社長執行役員  
水嶋 繁光

## 「エコ・ポジティブ戦略」の推進

企業ビジョンの実現に向けて、環境戦略「エコ・ポジティブ戦略」をグローバルに展開しています。4つの切り口から環境への取り組みを進めており、中でも、製品や太陽光発電関連事業などのビジネスと工場を中心にしたオペレーションの取り組みは、温室効果ガスの削減に直接つながるだけに特に力を入れています。亀山工場が操業を開始した2003年度から、工場や製品の環境配慮性を社内基準を設けて評価・認定する取り組みを本格的に進めており、組織の間で競争意識が働き、大きな効果を上げています。

また、この戦略では、国内外の全部門が環境貢献の目標を設定しており、グループを挙げての取り組みが、温室効果ガスの削減をはじめさまざまな側面でシャープトータルでの環境への貢献につながっています。



執行役員  
環境安全本部長  
村松 哲郎

\* 2011年度実績から、温室効果ガスの算定(電力)に使用する係数(海外分)をGHG PROTOCOL Calculation tools (GHG emissions from purchased electricity ver.4.3/Aug 2011)に変更しました。2010年度と同じ方法で算定した場合の排出量は145万トン-CO<sub>2</sub>、削減貢献量は496万トン-CO<sub>2</sub>となります。



## 持続可能な社会の実現をめざして 創エネ事業と省エネ商品をグローバルに展開し、 広く世界の文化と福祉の向上に貢献します。

今からちょうど20年前、1992年6月にブラジルのリオデジャネイロで開かれた国連環境開発会議(通称:地球サミット)において、地球環境の破滅を避けるための方法として、「持続可能な開発」という概念を世界が共有しました。そしてこれを機に世界中の国が、企業が、人々が、環境保全への取り組みを加速しました。しかしながら、今日まで20年間の成果は限定的であり、このかけがえのない美しい地球を次の世代に引き継ぐためには、さらなる人類の英知と行動が必要であり、そこにおいて、企業が果たすべき役割は、極めて重要であると言えます。

### ■ 持続可能な社会の実現をめざして

シャープは今年9月15日に創業100周年を迎えます。シャープのこれまでの事業を振り返ると、創業当時、和服から洋服への時代変化を先取りして発明したベルトのバックル(1912年)や早川式繰出鉛筆(シャープペンシル、1915年)、ラジオ放送の開始に合わせて商品化した国産第1号鉱石ラジオ(1925年)、テレビ放送の開始に合わせて量産化した国産第1号白黒テレビ(1953年)、将来有望なエネルギー源として目をつけ、逸早く研究をスタートし(1959年)、量産化に成功した太陽電池(1963年)、一般の人が手軽に計算機を使う時代をめざして開発した世界初のオールドランジスタ電卓(1964年)、電卓の小型化をめざし、世界で初めてポケット電卓の表示デバイスとして実用化に成功した液晶ディスプレイ(1973年)、夢の壁掛けテレビを実現した液晶カラーテレビ(1991年)など、

常に時代の要請に先駆けて、逸早く技術開発に取り組み、その技術を商品の形で世の中に提供することで、新たな暮らしの実現に貢献してきたことがわかります。

そして今、シャープが手掛けている事業の多くは、今日の時代の要請である持続可能な社会の実現に貢献するものです。

この特集では、その中から代表的な事業を、「太陽光発電による創エネで、再生可能エネルギーの時代を切り拓く」、「省エネのディスプレイで、豊かなコミュニケーションを実現する」、そして、「創エネと省エネで、人と地球にやさしい健康で安全な暮らしを提供する」という3つの切り口から、ご紹介します。





「グリーンフロント 堺」の太陽電池工場 (2010年3月稼動)



シャープとイタリア最大の電力会社エネル社のグループ会社エネル・グリーン・パワー社が設立した太陽光独立発電事業の合弁会社「Enel Green Power & Sharp Solar Energy S.r.l.」が建設して発電を開始したメガソーラー発電所(イタリア・カラブリア州)。イタリアでは他に5か所に建設して稼動中。同社は今後欧州だけでなく、中東やアフリカでも発電事業を展開する計画。



イタリアの薄膜太陽電池工場 (2011年12月稼動)

## ■ 太陽光発電による創エネで、再生可能エネルギーの時代を切り拓く

国際エネルギー機関(IEA)の発表によると、2011年の世界のCO<sub>2</sub>排出量は過去最高の316億トン(前年比3.2%増)を記録しました。この数字は、化石燃料の消費によって排出されるCO<sub>2</sub>で、温暖化ガス全体の約9割を占めるとされています。新興国の経済成長による排出増が続いており、「産業革命前と比べて地球の気温上昇を2度以内に抑える」という、世界が共有する目標の達成が、ますます困難になっています。

解決策として、世界各国で再生可能エネルギーの導入が進められていますが、その進捗をさらに加速する必要があると言えます。

シャープは代表的な再生可能エネルギーである太陽光発電の研究を今から53年前、1959年に逸早く開始しました。創業者 早川徳次は「無限にある太陽熱や太陽光線で電気をおこすことを工夫すれば、人類にどれだけ寄与するか、はかり知れないものがある」と考え、未来の技術を語る際、いつも最初に太陽電池を取り上げました。こうした早川の想いのもと、シャープは1963年に太陽電池の量産化に成功、以来、単結晶、多結晶、薄膜、化合物といったさまざまなタイプの太陽電池を開発・商品化し、灯台用から人工衛星用、産業用、住宅用、メガソーラー用と幅広い用途に展開して技術と信頼を蓄積してきました。

「グリーンフロント 堺」の太陽電池工場では、最新の技術を用いて薄膜太陽電池と単結晶太陽電池を生産しており、この工場をマザー工場として、世界の消費地に工場を展開する計画です。すでに最大の消費地である欧州のイタリアでは、現地の有力企業との協業により、同国最大の薄膜太陽電池工場を稼動しており、そこで生産した薄膜太陽電池を用いてメガソーラー発電所を建設し、発電を開始しています。

太陽光発電の本格的な普及には、「グリッドパリティ(既存電力並みの発電コスト)」の実現をめざした、さらなるコストダウンが必要です。シャープは、太陽電池セル・モジュールの開発・生産、システム設計、メガソーラー発電所の建設、さらには独立発電事業に至る、ソーラーのトータルソリューション事業を世界各地で進めています。また、太陽電池の変換効率を高める研究開発にも注力しており、これまでに集光型太陽電池セルで、世界最高※変換効率43.5%を達成しています。

シャープは太陽光発電への取り組みで、再生可能エネルギーの時代を切り拓きます。

※ 2012年6月現在





JR大阪駅

80V型液晶テレビAQUOS LC-80GL7。画面は番組情報とネット情報を一覧表示して簡単に選べる「ビジュアルモーションガイド」※1。最下段には新ネットサービス「AQUOS City」のメニューがあり、離れて暮らす家族のテレビ使用状況を電子メールでお知らせする見守りサービスや各種生活サポートサービス、情報サービスが用意されています※2。

**Web AQUOS LC-80GL7** ※1 サービス画面はイメージです。サービス内容は変更になる場合があります。また、番組名は架空のものです。  
製品詳細情報 ※2 詳しい内容は製品詳細情報をご覧ください。インターネットサービスの利用には、ブロードバンド回線や各種設定が必要です。回線業者やプロバイダーとの契約・使用料が必要です。



タッチディスプレイ「BIG PAD」を用いたテレビ会議や打合せ。コミュニケーションのスタイルがこれから大きく変わっていきます。



タブレット端末  
RW-T110(10.1型)・RW-T107(7型)。  
会議資料の送信※4・共有など「BIG PAD」と連携したシステムを構築できます。  
※4 別途有償のファイル共有ソフトが必要です。



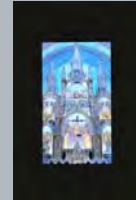
手書き入力ができるタブレット型学習端末JL-T100。「BIG PAD」と連携することで、学校や塾などでインタラクティブな授業を実現できます※3。  
※3 別途アプリケーションの開発や配信システムの構築が必要です。



第2工場で酸化半導体(IGZO)を用いた液晶パネルの生産を開始した亀山工場(三重県亀山市)。



新IGZO液晶ディスプレイ(試作品)  
(上:6.1型モバイル機器向け)  
(左:4.9型スマートフォン向け)



## ■ 省エネのディスプレイで、豊かなコミュニケーションを実現する

今日では誰もが当たり前利用している液晶ディスプレイ。テレビをはじめスマートフォンやタブレット端末、複写機の表示部など、身の回りの製品には多様な液晶ディスプレイが使われており、モノクロの文字から高精細なフルカラーの動画に至るまで、さまざまな情報を表示しています。薄型・軽量・省エネの液晶ディスプレイはモバイル機器に活用され、インターネットやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)などの普及によって、簡単に世界中の情報や知見にアクセスし、意見を交換し、コミュニケーションを図るためのディスプレイとして、無くてはならない存在になっています。また、屋内で用いる大型サイズのディスプレイとしても、薄型・軽量・省エネで高精細な液晶ディスプレイは広く使われています。

この液晶ディスプレイを実用化するための研究を、シャープは今から43年前の1969年に始めました。きっかけは当時多くのメーカーが電卓の小型化と低価格化にしのぎを削る中、可能な限り低消費電力で薄型の表示デバイスが必要であったということにあります。技術者の粘り強い研究により、4年後の1973年に、シャープは世界で初めて、液晶ディスプレイを採用したポケット電卓の開発に成功しました。圧倒的な省エネ性能により、単3電池1本だけで100時間使用できるようになり、ポケットサイズという大幅な小型化が実現しました。

シャープはその後も液晶ディスプレイの研究開発に取り組み、数字・文字表示から画像表示へ、モノクロからカラーへ、静止画から動画へ、より大きく高精細な画面へ、より薄く、軽く、省エネに液晶ディスプレイを進化させながら、用途の拡大を進めました。そして、シャープの技術者が夢に描いたのが、「壁掛けテレビ」の開発でした。ブラウン管テレビを薄型・省エネの液晶テレビに置き替え、人々に新しいライフスタイルを提供したいと考えたのです。

その結果はご承知の通り。これまでに世界中の何億台ものテレビが液晶テレビに置き替わり、新たなライフスタイルと圧倒的な省エネ、省資源を実現しています。

シャープは液晶ディスプレイのさらなる進化に取り組んでいます。このほど(株)半導体エネルギー研究所と共同で、酸化半導体(IGZO)の新技術を開発しました。この技術によって、液晶ディスプレイは、より一層の高精細化と低消費電力化、タッチパネルの高性能化を実現します。さらに、有機ELディスプレイへの応用も可能です。

シャープは省エネ・高精細のディスプレイで、豊かなコミュニケーションを実現します。





ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)の実証実験を進めている「グリーンフロント 堺」のシャープ・エコハウス



専用のタブレット端末で、タップに接続した家電機器ごとの消費電力をリアルタイムに確認できる「電力見える化システム」JH-RTP1/JH-RTP2のイメージ。



掃除機能とプラスマクラスターを搭載し、お部屋をキレイにするロボット家電「COCOROBO」RX-V100。「人工知能」「音声認識」「センサー」「スマートフォン連携」などの先進機能により、対話操作や簡単なあいさつなどのコミュニケーション、外出先からお部屋の様子の観察などができ、快適で安心感のある暮らしを提供します。(写真はイメージです)

## ■ 創エネと省エネで、人と地球にやさしい健康で安全な暮らしを提供する

シャープは地球の資源を利用し、エネルギーを使って製品を創っています。また、その製品をお客さまがお使いになることで、さらにエネルギーが消費されます。資源の循環利用と温室効果ガスを増やさないエネルギーの利用は、シャープにとって重要な課題です。

資源の循環において、シャープは使用済み商品のリサイクルを進めているのに加え、プラスチックを何度も繰り返し再生利用する技術を独自に開発し、着実に再生利用量を拡大しています。また、亀山工場では2004年の操業当初から生産工程の水を100%リサイクルしています。さらに、国内の工場では廃棄物の再資源化を徹底し、2001年度から11年連続でゼロ・エミッションを達成しています。

また、エネルギーについては、工場での生産をはじめとするあらゆる事業活動において省エネを徹底し、温室効果ガスの排出を抑制する一方、太陽電池の生産を拡大するとともに、商品の省エネ性能を高めることで、温室効果ガスの削減に貢献する取り組みを進めています。2011年度には、太陽電池の創エネと商品の省エネによる削減貢献量が、事業活動による排出量の3.1倍に達しました。2012年度からは、新たな目標を設定して温室効果ガスの削減に取り組めます(P.5参照)。

先進国が豊かさを維持し、新興国や発展途上国がさらに成長するためには、有限でCO<sub>2</sub>の排出にもつながら化石資源に依存しない創エネと、エネルギーを無駄なく使う省エネが不可欠です。

シャープはこれまで長年にわたり蓄積してきた独自の技術をもとに、太陽光発電による創エネ事業と省エネ商品の開発、そして、エネルギーを最適に制御するマネジメントシステムの開発を進めています。「グリーンフロント 堺」のエコハウスでは、ホームエネルギーマネジメントシステムの実証実験を進めています。また、千葉県「柏の葉スマートシティ」をはじめ、世界各地でスマートコミュニティのプロジェクトに参加しています。

また、シャープは空気を浄化する技術の開発も進めています。「プラスマクラスター」技術は、空気中の浮遊ウイルスの作用を抑え、浮遊カビ菌等を空中で除去する独自の技術です。これまでに、搭載商品とイオン発生デバイスを合わせて国内外に3,000万台以上出荷しています。

シャープは、独自の技術をもとに、世界の有力なパートナーと協力して、創エネと省エネで、人と地球にやさしい健康で安全な暮らしをグローバルに提供することで、広く世界の文化と福祉の向上に貢献するとともに、持続可能な社会の実現をめざします。

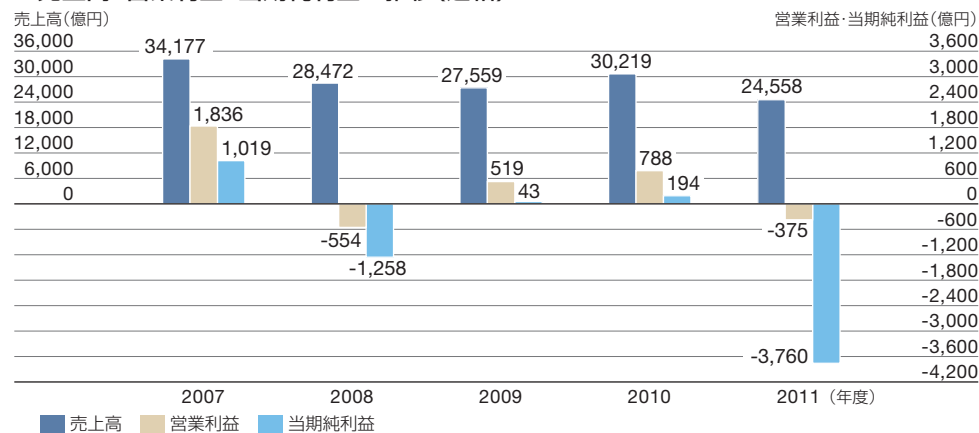


# シャープグループの概要

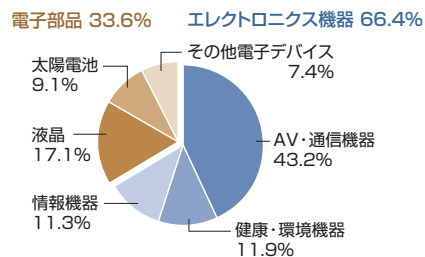
<b>会社概要</b>	社名	シャープ株式会社	事業内容	※ AV・通信機器、健康・環境機器、情報機器、液晶、太陽電池、その他電子デバイスなどの製造・販売	※ 2012年3月末現在
	本社所在地	大阪市阿倍野区長池町22番22号	資本金	※ 2,046億7,500万円(100万円未満は切捨)	
	代表	代表取締役 取締役社長 奥田隆司	従業員数	※ 連結対象会社社員数: 56,756名	
	創業	1912年9月15日		グループ総人員: 64,429名(国内30,889名、海外33,540名)	

<b>主要製品</b>	<b>AV・通信機器</b>	液晶カラーテレビ/カラーテレビ/プロジェクター/DVDレコーダー/ブルーレイディスクレコーダー/ブルーレイディスクプレーヤー/携帯電話機/モバイルコミュニケーション端末/電子辞書/電卓/ファクシミリ/電話機
	<b>健康・環境機器</b>	冷蔵庫/過熱水蒸気オープン/電子レンジ/エアコン/洗濯機/掃除機/空気清浄機/除湿機/加湿機/電気暖房機器/小型調理機器/理美容機器/プラズマクラスターイオン発生機/LED照明機器/ソーラー・LED照明灯/ネットワーク制御ユニット
	<b>情報機器</b>	POSシステム機器/ハンディターミナル機器/電子レジスタ/インフォメーションディスプレイ/デジタル複合機/各種オプション・消耗品/各種ソフトウェア/FA機器/洗浄機
	<b>液晶</b>	TFT液晶ディスプレイモジュール/デューティー液晶ディスプレイモジュール/システム液晶ディスプレイモジュール
	<b>太陽電池</b>	結晶太陽電池/薄膜太陽電池
	<b>その他電子デバイス</b>	CCD・CMOSイメージャ/液晶用LSI/マイコン/フラッシュメモリ/アナログIC/衛星放送用部品/地上波デジタルチューナ/高周波モジュール/ネットワーク部品/半導体レーザ/LED/光ピックアップ/光センサ/光通信用部品/レギュレータ/スイッチング電源

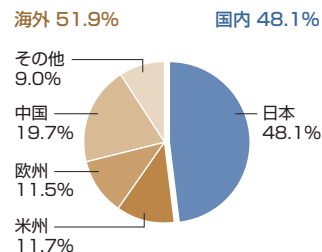
## ■ 売上高・営業利益・当期純利益の推移(連結)



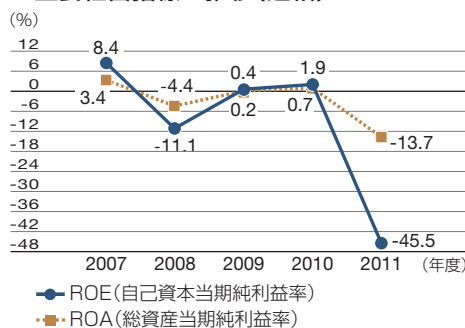
## ■ 2011年度部門別売上高構成比(連結)



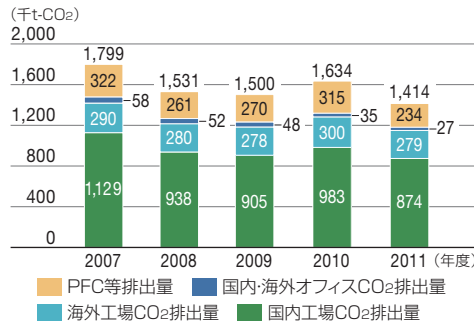
## ■ 2011年度地域別売上高構成比(連結)



## ■ 主要経営指標の推移(連結)

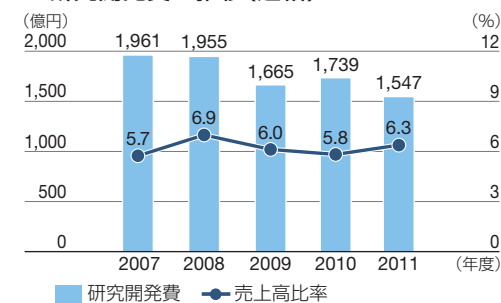


## ■ シャープグループの全温室効果ガス排出量の推移

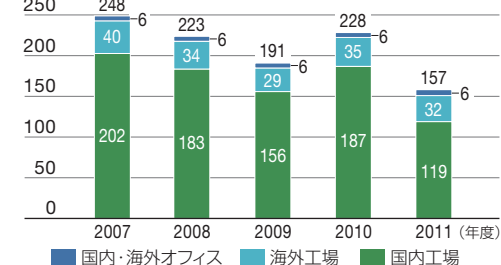


詳細については「シャープ サステナビリティ レポート 2012」のP.52をご参照下さい。

## ■ 研究開発費の推移(連結)



## ■ シャープグループの廃棄物等排出量の推移(有価物を含む)



詳細については「シャープ サステナビリティ レポート 2012」のP.54をご参照下さい。

# SHARP



## 国連グローバル・コンパクト

シャープは、2009年6月に参加した「国連グローバル・コンパクト」の10原則を踏まえ、人権、労働基準、環境、腐敗防止の各分野において、具体的な目標を設定し、グループ全体で取り組みを進めています。

## ■ SRI※(社会的責任投資)の状況

2012年3月現在、シャープは下記のSRI評価機関からSRIインデックス構成銘柄への選定、CSR格付認定などの評価を得ています。

- FTSE4Goodグローバル・インデックス(英国)
- MSCIグローバル・クライメット・インデックス(米国)
- モーニングスター社会的責任投資株価指数(日本)
- oekom research社 社会的責任格付「Prime」(ドイツ)



※ Socially Responsible Investmentの略。収益性や成長性だけでなく、環境や社会に対する取り組みも考慮して社会的責任を果たしている企業に投資を行う、投資行動のこと。

## シャープ株式会社

〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号  
<http://www.sharp.co.jp/>

## ■ お問い合わせ先

E-mail:eco-info@sharp.co.jp

環境安全本部 環境企画推進部

TEL 06-6625-0438 FAX 06-6625-0153

CSR推進本部 CSR推進室 企画グループ

TEL 06-6625-1167 FAX 06-6625-1274